

留学最前線

前編

今年度5月より、米国シカゴでの研究留学を開始しました。

私の留学先は、ノースウェスタン大学のShirley Ryan AbilityLab というリハビリテーション研究所です。地上27階・地下1階建ての巨大なビルの中に、8フロアの入院病棟(全242床)と研究設備があります。かつてのRehabilitation Institute of Chicago(RIC)の理念を引き継ぎ、各フロアは専門領域ごとに分かれ、医療者・研究者・技術者らが同フロアで連携しながら業務にあたる「トランスレーショナル・リサーチ・ホスピタル」として2007年に新たに開設されました。

今回私は、同施設の最高経営責任者(CEO)であるPablo Celnik医師のもとで研究に従事しております。同医師は、ISPRM2019や第13回ニューロリハビリテーション学会でも招待講演をお願いした、国際的に著名なリハビリテーション科医師(Physiatrist)です。私は「Arms + Hands Lab」という研究チームに所属し、運動学習と脳可塑性に関する研究を中心に学んでおります。米国のリハビリテーション医療の様子も学べる非常に良い機会と考えております。

現地での生活は当初戸惑いもありましたが、ラボのメンバーやシェアハウスの住人とも仲良くなり、充実した生活を過ごしております。物価はご想像の通りで、外食はあまり手が出ませんが、自炊して生活する分にはあまり日本と変わりません。ラボ周辺はダウントウンの中心地にあり治安は良好ですが、夜間の危険な地域への外出などは避けるようにしています。

この度の留学の機会を得られましたのも、道免先生をはじめとする医局の皆様のご指導とご支援のおかげと、心より感謝申し上げます。帰国後に医局や診療・研究に還元できるよう、精一杯努力して参ります。また続報にて現地の様子をご報告いたします。

兵庫医科大学病院 内山 侑紀先生



CRASEED News

Organization for
Clinical Rehabilitation with
Advanced Science and Effective EDucation



特定非営利活動法人 リハビリテーション医療推進機構 CRASEED

発行：NPO法人リハビリテーション医療推進機構CRASEED／年3回発行／第60号(2025年10月1日(水)発行)
〒560-0054 大阪府豊中市桜の町3-11-1 関西リハビリテーション病院内 TEL: 06-6857-9640 <http://craseed.org>

第62回日本リハビリテーション医学会学術集会

聴く立場から発信する立場へ、知識を深め実践へとつなげた挑戦と学び

2025年6月12日から14日にかけて、京都の国立京都国際会館で開催された第62回日本リハビリテーション医学会学術集会に参加しました。リハビリテーション科医として3年目を迎えた今回は、以前とは異なる視点で学会に臨むことができました。これまで「聴く」ことが中心だった学会参加から、知識を受け取るだけでなく、「噛み砕き、議論し、今後に活かす」という姿勢へと変化したことを実感しています。今回の学会テーマは「精力善用 自他共栄」でした。会場では、全国の医師をはじめ、他職種の方々が日々の診療経験や研究成果を共有し、活発な議論を交わしており、多職種が連携して医療の質の向上に取り組む姿勢を強く感じました。

私は、上肢麻痺に対するリハビリテーション医療機器を用いた治療をテーマとして発表を行いました。機器の使用モードの違いが機能回復に与える影響について検討し、今後の課題と展望について報告しました。質疑応答では多くの先生方から貴重なご意見やご質問をいただき、自分の報告に対する新たな視点を得ることができました。多くの専門家の前で発表し、活発な議論ができたことは大変有意義で、今後も積極的に学術的な発信を続けていきたいと感じました。特に印象深かったのは、道免先生による脳血管障害の予後予測に関する講演でした。会場は多くの聴衆で溢れており、講演では最新の予

後予測モデルと臨床応用について詳しく学ぶことができ、今後の診療に活かせる貴重な知見を得ることができました。改めてリハビリテーション界を牽引されていることを実感するとともに、臨床面・学術面ともにご指導をいただけることのありがたさを感じました。今回の学会参加で得た知識と気づきを日々の診療に活かし、患者さんのより良い治療につなげていきたいと思います。最後に、発表準備でお世話になった先生方に心から感謝申し上げますとともに、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

関西リハビリテーション病院 下村 恭平先生



VR最新機器による応用性と多職種の力が拓くりハビリテーション医療

このたび第62回日本リハビリテーション医学会学術集会に参加させていただきました。今回の開催は京都ということで、現在は洛西シミズ病院で勤務させていただいており、近くであるため現地参加しました。まず、企業展示ではMR/VR技術を用いたリハビリテーションが印象に残りました。運転シミュレーターや半側空間無視に対するVR訓練など臨床現場での応用性を強く感じました。実際に体験しましたが、訓練が楽しくて思わず熱中してしまっていました。没入感を伴う訓練



は患者さんのモチベーションにつながり、効果の向上につながるのではないかと感じました。こうした企業の技術が患者さんの社会復帰の後押しする手段となり得るのだと実感しました。また、学会には医師だけで

なくコメディカルの方が参加されていることも印象に残りました。今まで参加した学会では発表含め参加しているのは医師がメインでありましたが、リハビリテーション学会ではコメディカルの方もかなり多数参加されていました。実際、脳外科の時はインフォームド Consent が主な家族への情報提供の場でありましたが、リハビリ科では、カンファレンスが主であり、医師、セラピスト、看護師、心理士、MSWと多角的な視点からの情報提供を行うということでチーム医療の大事さを実感しております。多様な職種が専門性をもって患者さんのその先の生活まで考える、病態だけではなく人を見る重要性を感じました。最後に、今回初めてのリハビリテーション学会への参加でしたが、リハビリ分野は非常に広く深いことが分かりました。今後は自身の経験を基盤にしつつ、まだまだ新米ではありますが、リハビリ科医として成長し、興味のある分野を見つけ長く続けられるように日々の診療に励みたいと思いました。

洛西シミズ病院 芝野 綾香先生

CRASEEDセミナー情報

問い合わせ/申し込み NPO法人 CRASEED事務局 <http://craseed.org/>



■ 骨盤底筋トレーニングの基礎と臨床

日 時	2025年12月7日(日)10:00～16:00
受講料	8,000円(テキスト代・郵送料込み) 募集締め切り 11月13日(木)
講 師	安倍 弘和 先生(日本橋骨盤底診療所 所長/亀田総合病院泌尿器科部長 兼任 内視鏡下手術センター長) 辻野 和美 先生(株式会社ホリスティックヘルス研究会 代表取締役) 横井 悠加 先生(城西国際大学福祉総合学部理学療法学科 准教授) 森 明子 先生(兵庫医科大学リハビリテーション学部理学療法学科 准教授)

■ 西日本公式第26回ADL評価法FIM講習会

日 時	2025年12月13日(土)9:00～12:00/13:00～16:00
受講料	6,000円(テキスト代・郵送料込み) 募集締め切り 11月20日(木)

■ 呼吸理学療法実践セミナー

日 時	2026年2月21日(土)9:30～16:00 22日(日)10:00～16:00
会 場	兵庫医科大学西宮キャンパス(現地開催)
受講料	各日15,000円、両日27,000円(テキスト代込み) 定 員 各日80名(定員になり次第、締め切り)
特別講義	眞淵 敏 先生(みどりヶ丘病院リハビリテーション部 教育担当療法士)
講 師	森沢 知之 先生(神戸リハビリテーション病院リハビリテーション部 部長) 笹沼 直樹 先生(兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部 部長)

オンライン

現地開催

CRASEEDオンラインセミナー

— 臨床に活かす実践的なアプローチを学ぶ —

脳卒中予後予測セミナー

【講師】

道免 和久 先生(兵庫医科大学医学部リハビリテーション医学講座 主任教授)
小山 哲男 先生(兵庫医科大学医学部リハビリテーション医学講座 特別招聘教授)
内山 侑紀 先生(兵庫医科大学医学部リハビリテーション医学講座 准教授)
梅田 幸嗣 先生(兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部 理学療法士)

2025年8月2日オンライン配信にて脳卒中予後予測セミナーを受講させていただきました。脳卒中における予後予測の最新知見と臨床応用について、非常に体系的かつ実践的な内容をご教示いただき、大変有意義な時間となりました。

回復期リハビリテーション病院に入院される患者さんは脳卒中発症後数週間～

数ヶ月の方がほとんどであり、リハビリテーションの介入の仕方次第で身体機能予後を左右する重要な局面です。患者本人とその家族の希望と、医療者側の目標がすれ違う場面も考えられます。そこで医療者側は科学的根拠に基づき、ゴール設定をし、現状何が必要かを分析し患者とその家族に伝える義務があります。

まずセミナーは「予後予測とは？」からスタートし、基礎的な正常解剖学(運動野、感覚野、左右の脳半球の違いなど)、脳卒中発症により出現する障害の解説にうつります。先生方の説明も非常にわかりやすくクリアカットに解説して下さいます。FIMを用いた予測式の演習があり、実際の担当症例に当てはめて考えることで、より実践的な理解が深まりました。また、ADL構造解析図により、各FIM項目の難易度と介入の方向性が視覚的に捉えやすくなり、実際の症例の点数と比較してみたりなどして学びを深められました。症例検討スライドでは社会復帰の視点も含まれ、急性期から退院後までのADL拡大の流れを包括的に理解する機会となりました。これまで断片的だった予後予測の知識が一連の流れとして整理され、今後の臨床に直結する学びとなりました。今後の見通しの提示は、患者やその家族に対して説明する際に必要不可欠であり、実臨床に還元出来るよう日々精進を重ねてまいります。貴重なご講義をありがとうございました。

西宮協立リハビリテーション病院 東 菜由子先生

実践CI療法講習会

【講師】

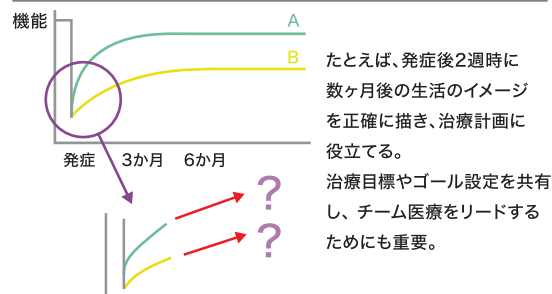
竹林 崇 先生(大阪公立大学 医学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授)
天野 暁 先生(北里大学 医療衛生学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 准教授)
梅地 篤史 先生(兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部 作業療法士)

2025年8月3日に毎年恒例の実践CI療法講習会が開催されました。オンライン視聴で、事前にカラー印刷のスライド一覧の冊子を受け取れます。昨今貴重となりました紙媒体でのカラーです、嬉しい限りです。視聴にあたってはURLにアクセスし、パスを打ち込めばすぐにリアルタイムの講義スライドが映し出されます。超特急です、ストレスフリーです。いやはや、素晴らしいの一言に尽きるクオリティでした。

午前は歴史や理論の紹介と先行研究の整理で、午後は実臨床の評価・加療計画や手技にフォーカスした内容でした。午前はどんな報告でどんな結果と結論が得られているか一目瞭然でした。学会発表・論文報告のご予定がある方にとっては研究テーマの構想や、実際にIntroductionを執筆するための勉強を代わりに済ませてくださっていますので、受講意義は極めて大きいでしょう。引用文献もしっかり記載され、配布資料でもしっかり判読可能です。極めて貴重な資料です。午後は非常に実践的で、豊富な画像を用い、一部は動画もあり、プレゼンターご自身の経験に即したリアルなポイント解説もありました。簡潔で復習性も高く、非常に良質なものでした。皆様におかれましては、ぜひ受講を推奨いたします。

兵庫医科大学病院 池田 泰之先生

予後予測とは



川村義肢株式会社の工場見学に伺いました



2025年5月19日、川村義肢株式会社 大東本社の工場へ見学に行かせていただきました。兵庫医科大学病院リハビリテーション科に入室させていただき2ヶ月目、初めて同期6人全員が集合し話すことができる機会ともなり、皆で楽しみにしながら参加しました。

初めに、本社展示室で装具の歴史についてご説明いただき、昔の革製の装具やキリンなどの動物の義足の展示も見せてもらい、そこに寄り添う人々の想いを感じました。次に、工場内で装具や福祉用具を作成する工程を見学させていただきました。義足を実際にみせていただき、その後にプラスチック装具を作っておられる部門で一部の工程を体験させていただきました。シート状になっているプラスチックを熱して、採型した患者さんの型に合わせて形を整えていきます。見学しているとスタッフの方々は簡単に作業されているように見えるのですが、実際に私達が体験させてもらうと、あっという間に冷却され固まってしまうプラスチックに戸惑っているうちにいびつな形になってしまい、プロの技術の



素晴らしさを実感しました。

その後、プラスチック装具の上端が皮膚に当たらないように工具でそり返りをつくる作業も体験させていただきました。プラスチックの差し込み具合などで出来上がりが変わることが分かり貴重な経験となりました。

また、長下肢装具の膝当てやカフベルト、コルセットなどの縫製を行っている部門も見学させていただきました。いずれの工程も手作業が多く、たくさんのスタッフの方々が丁寧に仕上げてもらえる様子が印象的でした。

今回の工場見学を通して、私達が日々の診療で処方し作成をお願いしている装具は、患者さんの想いをのせて多くの作成に携わる方々の努力と技術により作られていることが分かりました。患者さんのより良い生活につながる最適な装具が作成できるよう、今後も研鑽を積みリハビリテーション研修を続けて参りたいと思いました。今回はこのような貴重な機会を頂きありがとうございました。

兵庫医科大学病院 田端 涼子先生



第15回コンプリヘンシブ・リハビリテーション懇話会 開催！



2025年7月26日、アクリエひめじ(姫路市文化コンベンションセンター)にて「第15回コンプリヘンシブ・リハビリテーション懇話会」を開催いたしました。当院理事長の強い希望のもと、道免教授を姫路にお迎えし、姫路での初の開催が実現しました。当日は142名もの参加者が集い、盛況のうちに終了いたしました。本会は「多職種・多地域・多施設」の理念に基づき、「Comprehensive＝包括的」な交流を目指して運営いたしました。当院の20代から60代までの療法士・看護師・社会福祉士・事務員・薬剤師・管理栄養士・歯科衛生士で構成された実行委員が、それぞれの強みを活かして活躍しました。

当院はCRASEED allianceの中でも歯科を標榜している点が特徴であり、特別講演では、歯科医師・田崎達也が「ケアミックス病院における歯科医師としての関わり」について登壇しました。

シンポジウムでは「身体抑制最小化のための各病院の取り組み」をテーマに、2025年の診療報酬改定を背景とする各施設の実践と工夫について、医師・看護師・療法士・介護福祉士計6名より報告があり、活発な議論が展開されました。多職種連携の重要性を再認識する貴重な機会となりました。

一般演題セッションでは、学術的価値の高いテーマが揃い、発表者による洗練されたプレゼンテーションが続きました。鋭い洞察と実践力

に支えられた発表は、聴講者に刺激的で有意義な学びの時間を提供しました。

懇話会後の懇親会では、姫路名物・まねきのえきそばを味わいながら、各テーブル対抗のチーム戦を実施し、当院恒例の包帯巻きゲームや姫路クイズで大いに盛り上がりました。高得点を挙げたチームには、揖保乃糸の黒帯や江戸屋の本わらび餅など、姫路ならではの特産品を贈呈しました。

本会を通じ、姫路の地においても多職種連携と地域医療の深化に向けた一歩を刻むことができました。今後とも、こうした学びと交流の場を共に育んでまいります。

八家病院 中空 智子先生

